

平成19年度

北海道・東北ブロック保育研究大会

第2分科会 別紙資料

自然との関わりの中で育む心

～園周辺の自然を

活かした生活の中から～



青森県三沢市 春日台保育園

保育士 吉田綾子

春日台保育園の概要

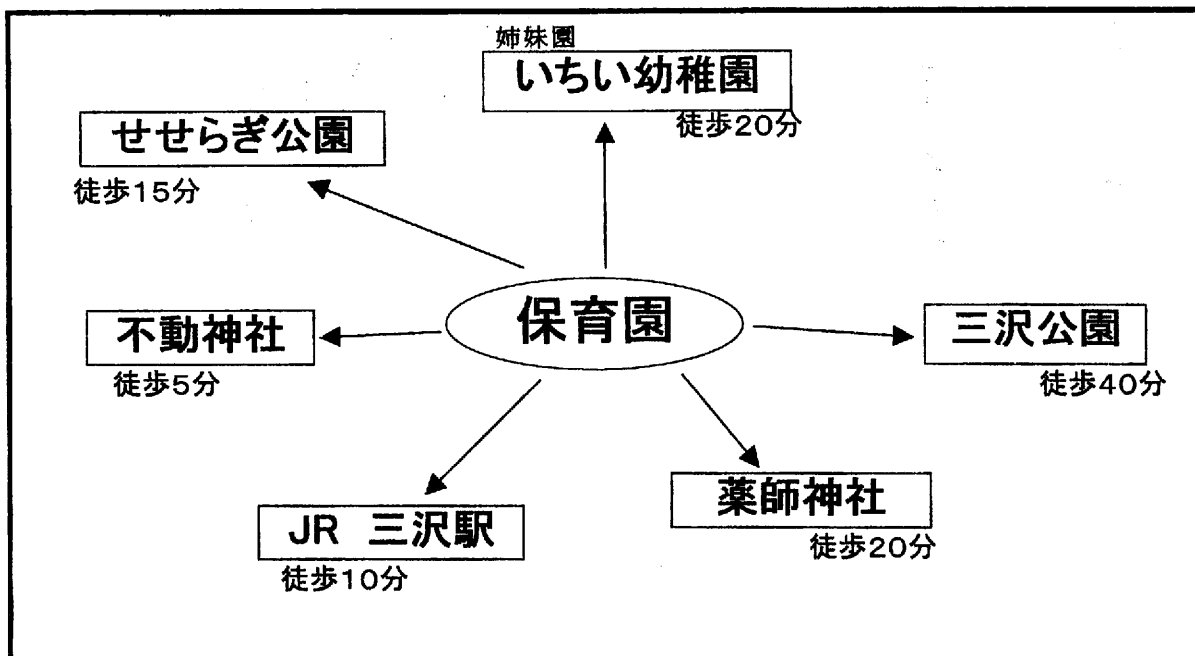
(平成18年4月1日現在)

- ・開園 昭和40年(42年目)
平成9年4月 全面改築
- ・構造 鉄筋コンクリート造二階建て 防音
- ・定員 120名
(4月現在138名)

{	0~2才児	53名
	3才児	32名
	4才児	20名
	5才児	33名
- ・職員

{	常勤職員	23名…	保育士	19名
				(うち育児休暇2名)
	非常勤保育士	8名		
	非常勤看護師	1名		

<園周辺の環境>



* 徒歩は園児の片道所要時間

* 自然とかかわる生活 *

平成18年度

(年間計画)

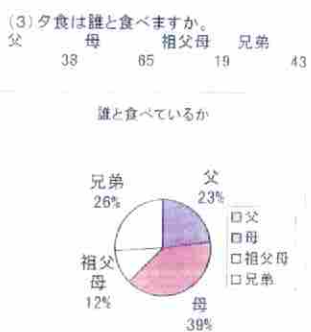
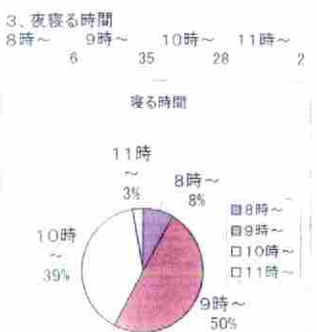
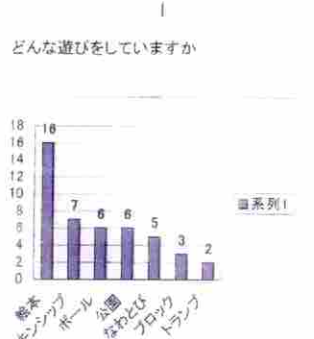
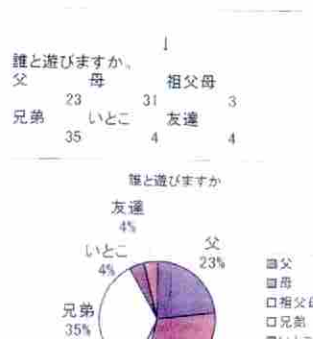
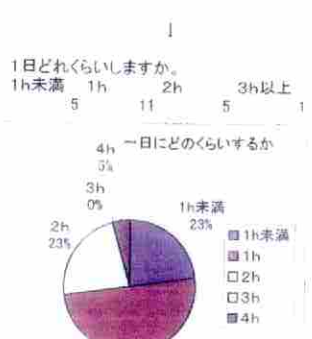
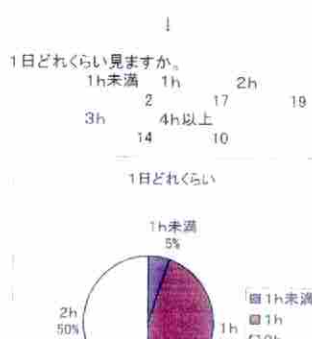
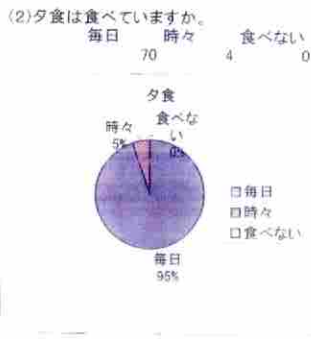
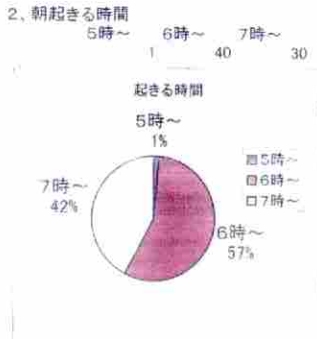
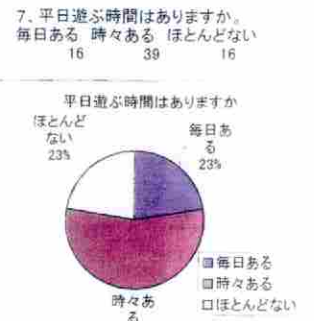
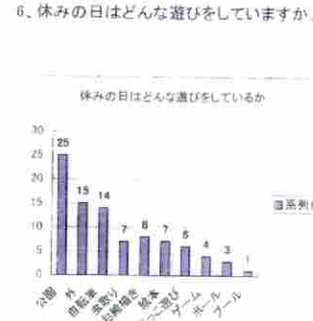
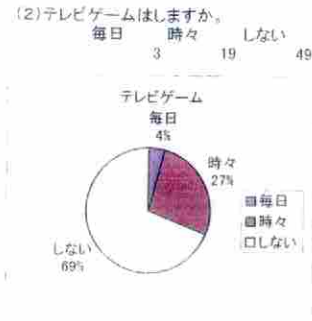
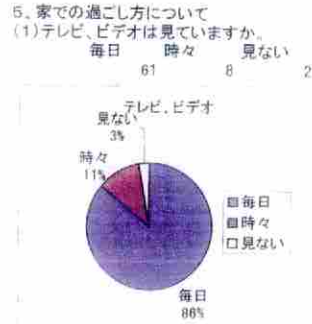
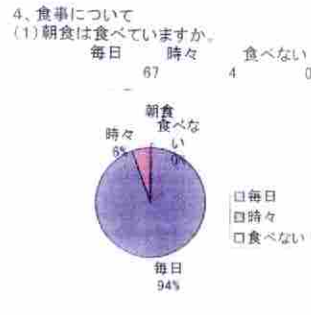
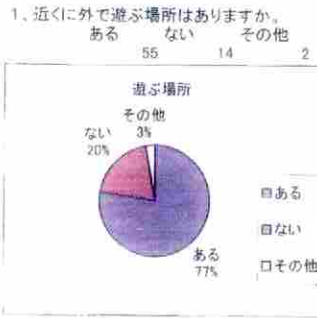
春日台保育園

		はる			なつ			あき			ふゆ		
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
3才児	畑の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする *夏の虫や自然に興味を持つ ・せみの声を聞く *秋の自然にふれる ・木の実、落ち葉拾い、虫探し (トンボ・どんぐり・まつぼっくり・いちよう、もみじなどの落ち葉) *冬の自然に親しむ (雪遊び、雪だるま、かまくら水見つけ、雪だまぶつけ、そりすべり、尻すべり) ・ひまわりの観察、水やりをする----->ひまわりのたねを収穫する ○飼育動物(にわとり・うさぎ)を見る->飼育動物にえさをやる ○おたまじゃくしの観察 ・いちごの観察----->いちごの収穫 ・4.5才児の育てた野菜を見る----->収穫した野菜を見せてもらう											
	園の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする 草花遊び(タンポポ・しろつめ草・たんぽぽ) 花壇の花への水やり、虫さがし ○飼育動物(にわとり・うさぎ)にえさをやる ○すずむしの観察 ○おたまじゃくしの飼育~かえる ◎園周辺や神社、公園の動植物 ・桜のお花見 ・ザリガニつり 生物(シジウカラ・おたまじゃくし・ざりがに) 草花(つくし・たんぽぽ・ふきのとう・はっば笛) 草花遊び(タンポポ・しろつめ草->かんむり・指輪・時計、四つ葉さがし) ・せみのぬけがら探し ・チューリップの球根植え ◎落ち葉集め(いもやき会) 二十日大根・人参の種まき----->収穫 じゃがいもの収穫(※園芸試験場)											
4才児	畑の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする ○飼育動物(にわとり・うさぎ・金魚・ザリガニ)にえさをやる ○すずむしの観察 ◎園周辺の植物とのかかわり ・沢の探検(ミズバショウ・ザゼンソウ) ・桜のお花見 ・ザリガニつり ・秋田ふきとり ・春、夏、秋、冬の図鑑、(観察ケースをもって)散歩(四季の草花・虫の名前調べ) 生物(カッコー・シジウカラ・おたまじゃくし・ザリガニ・かたつむり) 草花(つくし・たんぽぽ・ふきのとう・ほうずき) 草花遊び(タンポポ・しろつめ草・クローバー->かんむり・指輪・時計、四つ葉->しおり・おおぼこ->くらべ) *夏の季節を肌で感じる ・せみの声を聞く *秋の自然にふれる ・木の実、落ち葉拾い、虫探し (トンボ・どんぐり・まつぼっくり・いちよう、もみじなどの落ち葉) *冬の自然に親しむ (雪遊び、雪だるま、かまくら水見つけ、雪だまぶつけ、そりすべり、尻すべり) ・ヒアシンスの水栽培 ◎落ち葉集め(いもやき会)											
	園の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする ○飼育動物(にわとり・うさぎ・金魚・ザリガニ)にえさをやる ○すずむしの観察 ◎園周辺の植物とのかかわり ・沢の探検(ミズバショウ・ザゼンソウ) ・桜のお花見 ・ザリガニつり ・秋田ふきとり ・春、夏、秋、冬の図鑑、(観察ケースをもって)散歩(四季の草花・虫の名前調べ) 生物(カッコー・シジウカラ・おたまじゃくし・ザリガニ・かたつむり) 草花(つくし・たんぽぽ・ふきのとう・ほうずき) 草花遊び(タンポポ・しろつめ草・クローバー->かんむり・指輪・時計、四つ葉->しおり・おおぼこ->くらべ) *夏の季節を肌で感じる ・せみの声を聞く *秋の自然にふれる ・木の実、落ち葉拾い、虫探し (トンボ・どんぐり・まつぼっくり・いちよう、もみじなどの落ち葉) *冬の自然に親しむ (雪遊び、雪だるま、かまくら水見つけ、雪だまぶつけ、そりすべり、尻すべり) ・ヒアシンスの水栽培 ◎落ち葉集め(いもやき会) じゃがいもの種まき(※園芸試験場)----->収穫 二十日大根・とうもろこしの種植え----->収穫 きゅうり・ミニトマトの苗植え----->収穫											
5才児	畑の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする ○飼育動物(にわとり・うさぎ・金魚・ザリガニ)にえさをやる ○すずむしの観察 ◎園周辺の植物とのかかわり ・沢の探検(ミズバショウ・ザゼンソウ) ・桜のお花見 ・ザリガニつり ・秋田ふきとり ・春、夏、秋、冬の図鑑、(観察ケースをもって)散歩(四季の草花・虫の名前調べ) 生物(カッコー・シジウカラ・おたまじゃくし・ザリガニ・かたつむり) 草花(つくし・たんぽぽ・ふきのとう・ほうずき) 草花遊び(タンポポ・しろつめ草・クローバー->かんむり・指輪・時計、四つ葉->しおり・おおぼこ->くらべ) *夏の季節を肌で感じる ・せみの声を聞く *秋の自然にふれる ・木の実、落ち葉拾い、虫探し (トンボ・どんぐり・まつぼっくり・いちよう、もみじなどの落ち葉) *冬の自然に親しむ (雪遊び、雪だるま、かまくら水見つけ、雪だまぶつけ、そりすべり、尻すべり) ・ヒアシンスの水栽培 ◎落ち葉集め(いもやき会)											
	園の活動	*春の自然に親しむ ・園庭や散歩で草花や虫を見つけたり、触れたりする ○飼育動物(にわとり・うさぎ・金魚・ザリガニ)にえさをやる ○すずむしの観察 ◎園周辺の植物とのかかわり ・沢の探検(ミズバショウ・ザゼンソウ) ・桜のお花見 ・ザリガニつり ・秋田ふきとり ・春、夏、秋、冬の図鑑、(観察ケースをもって)散歩(四季の草花・虫の名前調べ) 生物(カッコー・シジウカラ・おたまじゃくし・ザリガニ・かたつむり) 草花(つくし・たんぽぽ・ふきのとう・ほうずき) 草花遊び(タンポポ・しろつめ草・クローバー->かんむり・指輪・時計、四つ葉->しおり・おおぼこ->くらべ) *夏の季節を肌で感じる ・せみの声を聞く *秋の自然にふれる ・木の実、落ち葉拾い、虫探し (トンボ・どんぐり・まつぼっくり・いちよう、もみじなどの落ち葉) *冬の自然に親しむ (雪遊び、雪だるま、かまくら水見つけ、雪だまぶつけ、そりすべり、尻すべり) ・ヒアシンスの水栽培 ◎落ち葉集め(いもやき会) じゃがいもの種まき(※園芸試験場)----->収穫 二十日大根・とうもろこしの種植え----->収穫 きゅうり・ミニトマトの苗植え----->収穫											

*園庭の樹木 (紅白の梅・いちい・ヒマラヤシーダー・さるすべり・ねむ・藤・栗・いちよう・もみじ・しだれ桜)

○は飼育に、◎は園周辺に関する項目

家庭での生活の様子についてのアンケート結果



<考察>

子ども達は、保育時間が長くなることにより、家庭では外で遊ぶ時間も少なく、「テレビ、ビデオ、ゲーム」など一人でもできる遊びや、一方通行の遊びが多く、人との関わりが少なくなっている現状がうかがわれる。また、戸外で自然に触れる遊びも乏しくなっているようだ。

そのため、1日の大半を過ごす保育園の役割は大きく、身近にある自然に触れながら保育をしていく事が大切であると考えている。

< 5 歳児 >

四季を通じて

事例① 園周辺の散歩（4月）

道端に咲いている花に気づくものの、名前が分からない花が多い。そのため、ポケット図鑑を持って散歩をする。一人一人が図鑑を持つことにより、分からない花の名前を自分から調べたり、友達同士で調べるなどし会話が広がっている。

< 考察 >

自分の図鑑を使い調べることで、少しずつ身近にある植物に興味を持ち始めたようだ。図鑑に載っていないものや、保育士自身もわからない植物の名前があり、事前に調べておくなどの準備が必要だった。

事例② 園庭での虫探し（5月）

小さな虫やアリを見つけ、ままごとのカップなどの容器に入れ持ち歩くが、片付けの時間になると、その場に捨てている子が多く見られる。そのため、一人一人に観察ケースを渡す。すると、見つけた虫を大事そうにケースに入れ、子どもなりに葉っぱや草などを入れて世話をしている。数日後、死んでいることに気がつき「埋めてあげる」と言い埋めに行く。また、4歳児の子と虫探しをするが、見つけられない子には自分が探した虫をあげている。

< 考察 >

虫を集めるだけで満足していたが、一人一人が観察ケースを持つことで、子ども達の虫に対する気持ちが、少しずつ変わってきている。また、虫探しを通し異年齢児のかかわりが増えているようだ。

事例③ 畑 ～種まき、水やり、草取り～（5月下旬）

どんな野菜を育ててみたいのか、みんなで話し合っ決めて。人参、ミニトマト、二十日大根、とうもろこし、きゅうり、枝豆などの意見が出る。種まきをして毎日、みんなが畑の様子を見に行き、水やりや草取りをする。芽が出たことや、葉っぱが大きくなったことなどの成長の変化に気づき、保育士や友達と育てている喜びを共感する。

< 考察 >

種まきでは、土に触り手が汚れるのを嫌がった子どももいたが、毎日、畑へ行き成長を見ることが収穫への期待が膨らみ、水やりや草取りを積極的にやるようになった。

事例④ 園庭遊び ～カタツムリ～（6月）

園庭でカタツムリを見つけ、一人の男の子が手のひらにのせ、「カタツムリ」の歌を歌い

出す。そこへ同じクラスの女の子も来て一緒に歌い、観察ケースに入れ二人で見ている。その後、飼い方を自分達で図鑑を使って調べたり、友だち同士でどうしたら良いか話し合い、観察ケースに水を入れたり、石や葉っぱなどを入れカタツムリの家を作っている。

<考察>

観察ケースに入れて飼いたい、大事にしたいと親しみをもつ心が芽生えてきたようだ。また、カタツムリなどの虫について、会話も多く聞かれるようになってきた。

事例⑤ お散歩マップ作り ～はる～（6月下旬）

園の周りの地図を下書きし、子どもと一緒に色を塗る。どこの道を歩いたのか、どんな花が咲いていたのか話し合いながら、マップに描いていく。思い出せない子が多く、図鑑を見ながら描く。

<考察>

どんな花が咲いていたのか、どんな虫がいたのか、答えることは出来るが実際に描いてみると難しいようで、描けない子や4、5月のことを忘れている子も多く、図鑑を見ながら描くことにした。すると、子ども達の間で会話が弾み、自信をもって描くことが出来た。

事例⑥ 畑 ～二十日大根の収穫～（7月）

3回に分けて収穫する。1、2回目は、給食の先生に調理してもらい、その日の給食に出してもらおう。3回目は家に持ち帰る。

1回目・・・苦手という子が多かったが、1口は口にしている。

2回目・・・ほとんどの子が残すことなく食べる。

3回目・・・家でどうやって食べたのか会話が聞かれる。

<考察>

自分達が育てた二十日大根を収穫する喜びを知る。また、給食の先生に協力してもらったことで、食べる楽しさを知ったようだ。野菜が嫌いな子も自分達で育てたことにより、意欲的に食べる姿が見られた。

事例⑦ 園芸試験場 ～ジャガイモ～（6～8月）

6月・・・ジャガイモの種芋まき

8月・・・ジャガイモ掘り、クッキング（三色いも団子）

<考察>

収穫するだけでなく、自分達で調理し食べることで、また違った喜びを感じている。いつも、給食やおやつをどのように作っているのか理解し、感謝の気持ちをもつ。以前に比べ、給食に対しどんな食材が入っているのか興味、関心をもつ子どもが増えたり、残食も減ってきた。

事例⑧ 作品展（11月上旬）

春、夏、秋と自分達で作ったお散歩マップをもとに、友だちと協力しながら部屋を共同展示していく。展示に必要な自然物（木の枝、木の実、葉っぱなど）を近くの公園や神社に行き集めたりと、秋の自然に触れる。

<考察>

保育士からの働きかけがなくても、季節の変化や木、花の変化など様々なことに目を向けられるようになり、気づくことや発見することが多くなってきている。その気づきや発見に共感し、作品展へとつなげていけるようにする。友だちとひとつの物を協力し作ることで団結力も強くなり、まとまりも出てきた。

事例⑨ ヒアシンスの水栽培（11月中旬）

野菜とは違い土ではなく、水だけで部屋の中で育てるということを説明する。始めは不思議そうにしていたが、自分たちの部屋の中で育てているため、いつでも成長の様子を観察でき、毎日の様に子ども達の間で、根や芽が出てきたことなどヒアシンスについての会話が聞かれるようになる。

<考察>

野菜は土で育ててきたため、水栽培ということに興味をもったようだ。そのため、水かえもはりきってやり、花の成長を楽しみにしている。水栽培のため、畑では見る事が出来なかった、根っこの成長も見ることが出来た。

事例⑩ お散歩マップ展示（3月）

部屋に春夏秋冬、4枚のお散歩マップを貼り、子ども達とどんな道を散歩したのか、どんな花が咲いていたのか話し合う。春の様子を忘れていた子もマップを見て思い出したり、その時の様子を楽しそうに話している。また、4枚を見比べることで季節の変化にも気づく子が多くなってきた。

<考察>

4枚を並べ、比べることにより季節の移り変わりに気づいたり、前よりも自然に対し関心をもつ子が増えてきている。また、お散歩マップ作りがきっかけとなり、一年を通して友達とひとつのものを作り上げたという、達成感が生まれ、クラスにまとまりが見られるようになった。

<5歳児>

四季を通じて

自然散策～お散歩マップ作り

春日台保育園

季節	自然散策の・子どもの姿と*保育士の援助				お散歩マップ作り	
春 4～6月	<p>・たんぽぽやチューリップなどの花を見つけ匂いをかいだりする。</p> <p>・名前を知っている花には興味を示すが、初めて見る花にはあまり興味を示さない。</p> <p>また、散歩に対しても積極的に行くこととする子が少ない。</p> <p>【*保育士が花の名前を知らせながら散策をしたり、子ども達の方から、散歩に行きたいと思えるよう考え、一人一人にポケット図鑑を渡し、調べてみようと呼ぶ。】</p>	<p>・ポケット図鑑を持ち、散歩をするということが楽しくなってきた様子で「今日も散歩に行きたい」と毎日のように言うようになる。</p> <p>【*散歩に行けることを楽しみにしている子どもが増えてきたので、少しずつ周りの自然に目を向けられるように、道に咲いている花の名前を子ども達に問いかけてみる。】</p>	<p>・何度か散歩をするうちに「この花なんだろう」「図鑑に乗っているんじゃない」など疑問に思ったり、調べてみようとする姿が多くなる。</p> <p>【*気づいたことを認め、一緒に図鑑を使って調べる。】</p>	<p>・散歩コースを変えて歩いてみると「この花してる」「あっちにも咲いてたよ」と、前に歩いた散歩コースを思い出して比べる姿が見られる。</p> <p>【*覚えていたことを認め、他の子どもにも伝える。】</p>	<p>(6月下旬)</p> <p>・4, 5月のことを忘れている子どもも多く、思うように描くことが出来ない。</p> <p>【*図鑑を見ながら描いてみようと呼ぶ。】</p> <p>・どんな花が咲いていたか図鑑を見ながら話し合うと「この花咲いていた」「思い出した」と言い描き始める。</p> <p>【*思い出せない子には、一緒に図鑑を見ながら散歩した時の様子を話し、思い出せるよう援助し見守る。】</p>	
夏 7～8月	<p>・春の頃比べ散歩をする距離を長くするが、どの子どもはりきって歩いている。</p> <p>【*夏のポケット図鑑を渡し、春の頃の様子を子ども達と話しながら散歩をする。】</p>	<p>・「もう枯れちゃったね」「違う花が咲いている」など春の様子と比べる姿が見られ、知らない花に対しても積極的に調べようとする姿が見られる。</p> <p>【*植物に対し興味を持ってきたので、季節の移り変わりについても知らせていく。】</p>	<p>・今までは友だちから「ここに載ってるよ」と花の名前を覚えてもらっていた子ども自分で探してみようとする姿が見られるようになり、友だちより早く花の名前を見つけ「あった」と自信をもって友だちに知らせている。</p> <p>【*「すごいね」「よく見つけたね」などと認めて褒めてあげる。】</p>	<p>(8月下旬)</p> <p>・春の頃比べ、スムーズに描き始める。</p> <p>・出来上がった夏のマップを春と比べみんなで見ながら気づいたことを話し合う。「違う花が咲いていた」「草が伸びた」など様々な変化に気づく。</p> <p>【*子どもの気づきに共感し、認める。】</p>	事例⑥、⑦	
秋 9～11月	<p>・秋のポケット図鑑を持ち散歩に行く。</p> <p>・「実がなってる」「葉っぱの色が変わった」など保育士からの働きかけがなくても、子ども達の方から気づくことが多くなった。</p> <p>【*子どもの姿を見守りながら、気づいたことに対し共感する。】</p>	<p>・道や公園に落ちている木の葉や葉っぱを拾って園や家に持ち帰る。</p> <p>【*他の子どもにも、木の葉が落ちていることを知らせ子ども達と一緒に調べる。】</p>	<p>・「何の実だろう?」と実を拾い、ポケット図鑑を見るのが載っていないため「これ違うね」と残念そうにしている。</p> <p>【*ポケット図鑑では探せなかった木の葉を園に持ち帰り、違う図鑑を使って調べてみようと呼ぶ。】</p>	<p>・「あった、これだ」と嬉しそうに友だちに知らせている。</p> <p>【*園にある図鑑を貸し、一緒に調べる。】</p>	<p>(11月上旬)</p> <p>・木の葉や葉っぱの細かい部分まで描けるようになってきた。</p> <p>【*今までのマップ作りの経験を作品展へとつなげていけるようにする。】</p> <p>・春、夏、秋のマップを基に、一部を季節ごとに分けて展示していく。「ここは神社だから、この木があった」「こっちは公園だよ」とマップを作っていたことで、イメージしやすく作品作りにも意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p>【*作品作りでは、子ども達が拾ってきた自然物を活かせるように、工夫し進めていく。】</p>	事例⑧、⑨
冬 12～3月	<p>・冬のポケット図鑑を持って散歩に行くが、雪が積もっているため植物を見つけることが出来ない。「お花、咲いてないね」「木も、はだかんぼうで寒そう」などの声が聞かれる。</p> <p>・「わぁ凍ってる」「まっしろだー」と雪が降りいつもの様子と違うことに気づく。</p> <p>【*子どもの気づきに共感し、足元に気づけながら歩くように伝える。】</p>	<p>・冬は植物が少ないということに気がつく。</p> <p>【*冬のマップ作りは、どうしたらいいか問いかけてみる。】</p>	<p>・「何も描けない」と言う子どもが多かったが「歩いた道には何があった?」との問いに「雪!」という声が聞かれ、みんなで雪を描くことにする。</p> <p>【*どんな素材、道具を使って雪を描くか子どもと一緒に考える。】</p>	<p>(3月上旬)</p> <p>・絵の具とスポンジを使い雪を描く。「本当の雪みたいだね」と楽しんでいる。</p> <p>・春、夏、秋、冬、4枚のマップを展示すると「あっ、ここ歩いたよね」「これ僕が描いたのだ」など散歩した時の様子やマップ作りのことを思い出して話をしている。</p> <p>【*みんなで一緒に4枚のマップを見比べる機会を作り、気づいた事を聞いてみる。】</p> <p>・季節ごとに違う花が咲いていることや、草や葉っぱの色が変わった事などに気づく。</p> <p>【*気づいたことを認め、みんなで共感する。】</p>	事例⑩	

< 4歳児 >

おたまじゃくし（カエル） とのかかわり

1、園周辺の公園に行く。

月日	子どもの姿	*援助と◎考察
6月 6日	<ul style="list-style-type: none">・公園の小川でおたまじゃくしを見つける。・おたまじゃくしを手で捕まえようとする。・保育士と一緒に捕まえたおたまじゃくしを見たり、触れたりして喜ぶ。 ・おたまじゃくしを園に持ち帰りクラスで育てることを決める。・持ち帰る途中「帰るまでにカエルになるかもしれないね」と話す。」	<ul style="list-style-type: none">*発見した喜びを共感する。 *安全面に留意し、捕まえようとする様子を見守ったり、応援する。*少し様子を見守るが、なかなか捕まえることが出来ないので一緒に捕まえる。*おたまじゃくしに対して恐怖感を抱く子も見られるので、十分に気持ちを受け止めた上で、楽しそうにかかわっている他児の様子に興味や関心が向けられるよう働きかける。*捕まえたおたまじゃくしをどうするか子ども達の声に耳を傾ける。*カエルへ成長することへの期待を膨らませていけるような言葉がけをする。◎おたまじゃくしを飼育することで、好奇心や生命への思いやりの心が育んでいきそうだ。

2、飼育と観察から

月日	子どもの姿	*援助と◎考察
6月 6日	・「おたまじゃくしは何を食べるのかな？」と疑問に思う。	*水槽を準備する。 *何を食べるのか図鑑を見て子ども達と一緒に調べる。また、図鑑がいつでも見られるように、クラスの本棚に加える。 *えさの準備をする。
11日	・えさを食べているおたまじゃくしを見て「ご飯食べてるから足生えてくるんじゃない？」と期待する。	*「そうかもしれないね」と一緒に期待感をもつ。
12日	・なかなかえさを食べない様子を見て「みんなが見てるから、恥ずかしくて食べられないんじゃない？」「カエルの歌をうたったら食べるかもしれないよ」と言う。 ・「(カエルになりたくないよ) って言ってるんじゃない？」と話す。	*子どもの話によく耳を傾け、どうしたらえさを食べるのか一緒に考えたり、子どもが提案したことを取り入れ、みんなでカエルの歌をうたう。 *子ども達の間でおたまじゃくしを心配したり気にかける子が増え、思いやる気持ちが増えたと感じた。
16日	・動かないおたまじゃくしを見て、「眠くなったんじゃない？」「生きてるの？死んでるの？」と心配する。	*どうして動かないのか一緒に考え、生死を心配している子には水槽を動かして、おたまじゃくしが泳ぐ様子確かめてもらい、生きてることを伝える。
19日	・足が生えたのを見て「わぁ足が生えたよ」と喜んだり、友だちに教える。	*子どもが気づいた発見や喜びに共感する。 ◎足が生えたことで、もうすぐカエルになるのではないかという期待感が膨らむ。
24日	・図鑑を見た子どもが水槽に、石が入っていることに気づく。 ・石を入れて丘を作る。	*一緒に図鑑を調べる。前足が生えると水から上がるようになるため、大きな石などを入れて丘を作ると良いと書いてあることを子ども達に伝える。 ◎子ども達が自分たちで丘を作ったことにより、おたまじゃくしが、もっと楽しく遊べるのではないかという期待感や満足感が感じられる。
26日	・カエルに成長したのを発見して、「私がカエルになりますよって言ったか	*「やったあ、カエルになったね」と子ども達と一緒に成長したことを喜ぶ。

27日	<p>らカエルになったの」と喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長したカエルがおたまじゃくしに食べられるのを見つけて「カエルとおたまじゃくし、けんかしたのかな?」「ひとりだけカエルになったから怒ったのかな?」「カエルが、いじわるしたから、かじってるんだよ」と友だちと話をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> *子ども達が悲しんでいる気持ちに共感する。 ◎食べられたカエルを見て、かわいそうだという、いたわる気持ちが表れる。また、生命への興味や関心をさらに、持ち始めたのではないかと思われる。
28日	<ul style="list-style-type: none"> 死んでしまったカエルを見て、「もう死んじゃってるよ、かわいそうに」「カエルの仲間の所に連れて行こう、お墓を作ってあげよう」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> *死んでしまったカエルのお墓を一緒に作り、カエルが仲間の所に行けるように子ども達と一緒に祈る。 ◎「カエルのお墓を作りたい」「仲間の所に連れて行きたい」という気持ちから、以前より生命への思いやりや、いたわる気持ちが育んだように思われる。 * どうして死んでしまったのか図鑑を調べる。カエルになると、生きた虫を食べるため外へ逃がしてあげると良い、ということが分かり子ども達に伝える。
30日	<ul style="list-style-type: none"> 成長したカエルを外に逃がす。「大きくなってね」「元気でね、バイバイ」と成長を願ったり、別れを惜しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> *子ども達がカエルの成長を願う気持ちや別れを惜しむ気持ちを温かく受容、共感する。 ◎自分たちが、おたまじゃくしからカエルへ成長するまで育てられたという、満足感や達成感が感じられる。

まとめ

おたまじゃくしを育てることで、子ども達は生命への思いやりや、いたわる気持ちが育まれた。また、その気持ちが育まれるためには、保育者の環境構成や援助の働きかけ、おたまじゃくし（カエル）についての生態知識を、あらかじめ調べておくことが大切で、必要であることを感じ反省した。

子ども達は今回、おたまじゃくしやカエルと関わることで、友だちと一緒に話し合ったり、発見したり、共感する喜びを味わい、交流を深めることが出来た。そして、身近な動植物に対して親しみをもって接したり、遊びに取り入れる姿が見られるようになった。

< 3 歳児 >

ひまわりの観察を通して

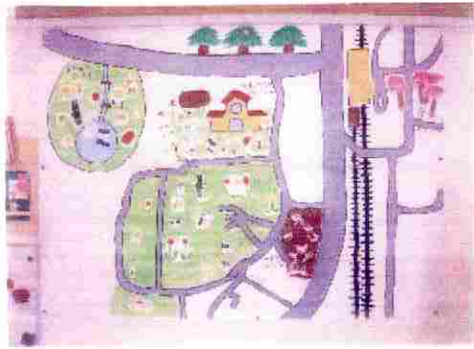
月	子どもの姿	*援助と◎考察
4月 中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・4月当初、園庭遊びをすると花壇のチューリップを見て「何色かな」「ちょっと見えているよ」など様々な言葉が聞かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> *戸外での活動を取り入れ、園庭の花や自然と触れ合う機会を多くもつ。
4月 下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん咲いた時は喜んで歌をうたったりするが、花期が終わると「枯れちゃったね」と関心が薄れていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎3歳時の子ども達は咲いている花はきれいだがその事実だけで、その後の様子には、あまり関心はないようだ。(自然に関心をもたせるにはどのような配慮が必要か)
6月 中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニひまわりに関心を示し、登園するとすぐに、ひまわりを見に行く子もいる。 ・水やりの時に「このくらい？」とそっと加減しながら水をあげている。 ・友だちが葉っぱを触っていると「触るとかわいそうだよね」「枯れちゃうよね」と、注意をする姿が見られる。 ・登園すると、ひまわりを見て「大きくなった、大きくなった」と数人で歌っている子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> *植物の成長を身近に感じられるように、芽の出たミニひまわりを鉢に移し、保育室で育てられるようにする。 *子ども達が水やりしやすいように、小さなジョウロを準備しておく。 ◎毎日、水やりをすることで子ども達のなかに、ひまわりを大切にしたいという気持ちが、芽生えてきたのではないか。 *子ども達の発見と驚きに共感し、ひまわりが、少しずつ大きくなっていることを一緒に喜ぶ。
6月 下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生、下の葉っぱ枯れているよ」と慌てて教えに来る子がいる。 ・保育士が鉢を動かそうとすると「先生、優しくね」「そっとだよ」と教えてくれる子がいる。 ・「先生、ひまわりの花のちっちゃいのある」と、つぼみを発見し教えに来る。 	<ul style="list-style-type: none"> *ひまわりは大きくなってくると、下の葉が枯れることもあるということを伝え、ひまわりが大きくなってきていることだと安心できるように声をかける。 ◎子ども達が毎朝、ひまわりの様子を自分たちから進んで見に行っている。 *子ども達の期待感が続くように朝の集まりで、ひまわりを見るコーナーを

<p>7月 中旬</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日のように子ども達から「葉っぱ伸びた」「つぼみ大きくなっている」と言う声が聞かれる。 • ひまわりの花が咲くと「ちっちゃいけどかわいい」と、いつでもひまわりを見に行く姿が見られる。 • 「お水たくさん飲んだからだよね」と花が咲いてからも、はりきって水やりをする。 	<p>作り、ひまわりの様子をみんなで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「みんながお水をあげたからだね」「お花、喜んでいるね」と子ども達の頑張ったことを認めて声をかける。 * 水をあげすぎても良くないということを伝える。
<p>8月 上旬</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 花が枯れてくると「かわいそう」と言う子もいるが「種になるからだよ」と言う子もいる。 • 種にならずに枯れたので、土に埋めてあげる。 	<p>◎自分たちが育てた花が枯れ、種になることはわかっているけど寂しい様子。ひまわりを思いやる気持ちが、湧いてきているようだ。</p>

まとめ

- 未満時クラスから進級し、3歳児以上児での活動となり生活環境が変わった。そこで、今までやったことのない花壇の水やりや植物を育てたりすることで園庭や身近な草花に興味をもてたように感じる。
- 「水をあげれば何かが育つ」という子どもなりの考えが生まれた。
- 自分たちが、いつでも見られる目の届く場所に置き、ミニひまわりを育てることによって、ひまわりの小さな変化に驚いたり心配したり、どうしたらいいのか考え日々の会話に出てくるようになった。このように、子ども自身が育てることによって花や木も「生きている」ということに気づき、思いやる気持ちが芽生えたことを確信した。
- 今回だけでなく、これからも機会をもち動物、植物にかかわりながら豊かな心を、育むことが出来るような働きかけを考えていきたい。

はる



はたけ



「早く大きくな〜れ」

なつ



みんなで育てた野菜



「あっ、おたまじゃくし発見!」



「こんなにたくさん取れたよー」



「おいしそうでしょ!？」

ザリガニ釣り



「さあ 釣れるかな？」

秋田ふきどり

「ヨイショ、ヨイショ」



「わあい トトロのかさみたい!」

仏沼散策

「んっ 何が見えるかな？」



「うわあ おおっかい!」



「オオセッカ」



「たくさん掘るぞー」

ジャガイモ掘り

「ほら、あったよ〜」

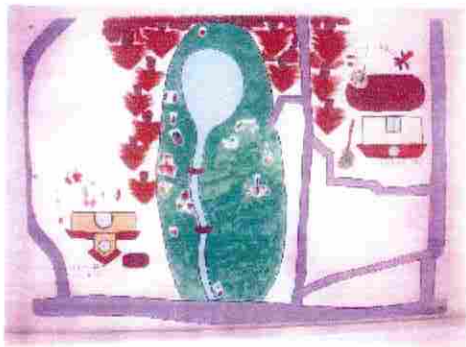


クッキング

「三色いも団子作りに」



あき



「桜の花が満開
みんなで、お花見したよ!」

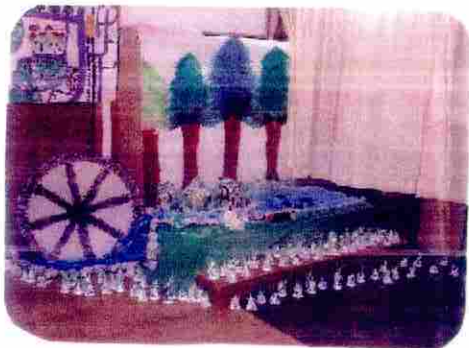
「木にはいろんな虫がいたよ!」



「ビリビリ」



作品展 春～秋を共同制作



「小川でおたまじゃくしを見つけたよ!」



「たくさんの落ち葉で遊んだよ!」



「ベタベタ」

「さあ どんな作品が
できるかな?」



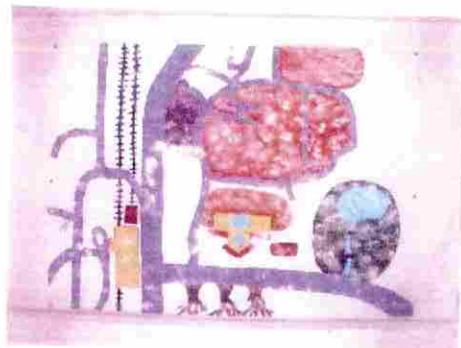
「お水をこぼさないように
「そおっと そおっと」

「いっぱい お水飲んで
きれいな花を咲かせてね」



「ヒアシンスの水栽培」

ふゆ



アメリカ村整備事業

三沢市は、戦後、基地の建設とともに急速に発展しました。

その街並みはゲート前を中心に広がり、商店街は県道沿いに形成されました。

しかし、郊外への大型商業施設の進出、基地内商業施設の充実や円高による基地関係者の商店街離れ、後継者不足などにより、中心商店街の空洞化は急速に進みました。

三沢市の経済の顔ともいえるこの商店街の復活は、三沢市にとっておおきな課題であり、国・県の指導を仰ぎながら、地元住民や商工会など、多くの関係者が、その対策を検討してきました。

そして商店街に賑わいを取り戻すべく導き出された答えが、三沢市の特性を活かした個性豊かな商店街づくり「アメリカ村」です。

現在は、東西約1キロの県道沿いの商店街のうち、中央町商店街と大通り商店街の面積約4.8ヘクタール、181棟の商店や住宅を対象に事業が進められています。

県道の道路と歩道の幅を広げ、通りに面した建物の外観には、アメリカの商店の外観を取り入れ、街灯もアメリカの商店街にみられるものにするなど、商店街の通りにアメリカの景観をつくりだします。

さらに、拠点商業施設として、アメリカの地方都市の空港ターミナルを模したショッピングとレストランが入店する「MG（エムジィ）プラザ」がゲート前の「アメリカ村広場」を囲むように建てられます。

また、「MG（エムジィ）プラザ」や「アメリカ村広場」では、アメリカ文化を楽しみ、季節感を感じられる「イースター」、「アメリカンデー」、「ハロウィン」、「クリスマス」などのイベントを開催します。

注) MGプラザのMGは、三沢米軍基地正面の基地出入り口であるメインゲート＝Main Gate の頭文字からとった。

村をつくる5つの事業

アメリカ村整備事業は、施行面積4.8ヘクタール、181棟の建物が移転にかかる大事業ですが、その対象、目的、方法などから、大きく分けて5つの事業から成り立っています。これらの異なる事業が合わせられ、アメリカ村がつくられていきます。

●中央町地区都市再生土地地区画整理事業 (国土交通省補助事業)

アメリカ村整備事業の根幹を成す事業です。区画整理手法により、計画区域の約5分の4、約3.9ヘクタールの土地の集約・再編を行い、効率的な土地利用、空き店舗・低未利用地の解消、商業集積及び店舗の連担性を図るとともに景観に統一性のある街並み「アメリカ村」をつくります。
県道沿いの歩道は拡幅し、電線類の地中化と融雪設備を設置します。

●ゲート前歩道整備事業

(防衛施設庁補助事業)

ゲート前交差点からゲートまでの歩道、延長180m、幅2mを整備する事業です。電線類の地中化と融雪設備を設置します。
また米軍ではゲート前道路の改修計画を進めています。

大通り拠点
施設検討区域

●市道大町・ゲート前東線整備事業 (防衛施設庁補助事業)

県道沿いの建物をセットバックし、延長220m、幅3.5mの歩道を整備します。電線類の地中化や融雪設備も設置します。

●拠点施設整備事業

(事業主体：地元まちづくり会社
MGインターナショナル株式会社)

米軍基地に隣接した商店街という地域特性を活かしたアメリカ村整備のテーマのもと、テナントミックス型共同店舗として、輸入雑貨店・飲食店のほか、FMラジオ局・CATVスタジオ・イベントホールなどを集約した施設を作ります。

●アメリカ村広場整備事業 (防衛施設庁補助事業)

扇型街区の要の位置に、休憩・イベントなど多目的に活用できる広場を整備します。広さは、1,713㎡です。

事業スケジュールとその費用

事業名	設計	用地買収	建物等移転、工事	工事	建築	その他	費用(億円)
中央町地区都市再生土地地区画整理事業	-	-	建物等移転、工事	建物等移転、工事	建物等移転、工事	建物等移転、工事、清算	約70億円
アメリカ村広場整備事業	設計	用地買収	用地買収	用地買収・工事	-	-	約3億円
市道大町・ゲート前東線整備事業	設計	建物等移転	建物等移転、工事	建物等移転、工事	-	-	約9億円
ゲート前歩道整備事業	-	-	設計	工事	-	-	約1.5億円
拠点施設整備事業	-	-	設計	建築	-	-	-

※事業費は必要と見込まれる最大の費用の合計額です。

はやわかり ラムサール条約

ラムサール条約のエッセンスと疑問解消を要約



① ラムサール条約とは?

湿地を守るための国際条約。事務局はスイス・グラン。締約国は湿地を1カ所以上登録する。3年ごとに締約国会議、今回は2008年に韓国。締約国など最新情報は、<http://www.ramsar.org/>

② 登録されるための条件は?

日本では、次の3条件。①選定基準1～9のいずれかを満たしている、②鳥獣保護法など国の法律で守られている、③地元の同意が得られている。ポイントは地元の理解と意思。

③ 湿地とは? どんな湿地があるの?

ラムサール条約では池、沼、湖、湿原、川、海岸、干潟、マングローブ林、サンゴ礁、水田、ため池、水路、地下水系など、およそ水のあるところをすべて湿地といい、42のタイプに分類。P.3参照。

④ 登録されるとどうなるの?

国際的に評価され、国内外の注目をあび、地元の誇りとなり、保全と賢明な利用が進み、湿地の恵みが次世代へ守り継がれていく。観光や物産への付加価値、地域振興も期待される。

⑤ 湿地はなぜ重要な?

飲み水や魚などの資源を提供し、水質浄化や洪水防御など水循環の調整機能をはたし、動植物の生息地、水運、心の安らぎの場となるなど、地球と人間と生きものたちにとって不可欠の生態系。

⑥ 登録で新たな規制は?

新たな規制、制約はない。厚岸湖や宍道湖の漁業、宮島沼や蕪栗沼の農業、奥日光や釧路湿原、琵琶湖、秋吉台などの観光、串本沿岸海域や慶良間諸島のダイビングなど、むしろ賢明な利用が盛んに。

⑦ どんな湿地が登録されるの?

地域を代表する・希少なタイプの湿地、生物多様性の維持に重要な湿地、特定の水鳥・魚類・動植物種が生息する湿地など、登録湿地の選定に適用される国際的に重要な湿地の基準がある。p.4参照。

⑧ 重要なのは登録湿地だけ?

ラムサール条約がめざすのは、登録の有無にかかわらず、すべての湿地の保全と賢明な利用。湿地に優劣、重要・非重要な区別はない。それぞれの湿地の役割、価値に目をむけることが大切。

⑨ 湿地とつきあう? 湿地を楽しむ? それが湿地を守ること?

湿地を楽しむ、それが湿地を守ること。湿地にいて、目で見ると、耳で聞く、匂いをかぐ、息をすって味わう、そして肌で感じる。スタイルや手法は自分流でいい。湿地はいつもやさしく迎えてくれる。NGO活動に参加するのもいい。湿地を愛する会や楽しむ会をつくるのもいい。仲間といっしょに湿地を楽しむ。それがラムサール条約の望んでいること。

CRASHING LAND MAP

六ヶ所村

高瀬川放水路

太平洋



砂森地区

小川原湖

オオセッカやトンボほか
観察適地は仏沼干拓地の中
でもさんかく池を中心とし
た北東部や三本松あたりの
北部がお勧めです。水田・
休耕地も楽しめますが農家
の方に配慮した行動が大切
です！



至：三沢道の駅